

I 「(仮) 飯山ぷらざ」が目指すもの

1、位置づけと役割

飯山市民の芸術・文化水準の向上のため、日常的な練習や活動を支えていく芸術・文化振興の拠点として、市民が使いやすく、質の高い舞台・音響などの設備環境が整ったホールを中心とした施設整備を重点に位置づけます。

また、新幹線飯山駅開業を契機に、市内外の多くの人が集まりやすく利用しやすい、まちの交流の場と、観光・展示会など商業的な活動を通じ、回遊性や活性化が期待できる、にぎわいの場として、その両面が活かされる複合的な機能を持つことも不可欠と考えます。

2、市民の資産

現市民会館は、飯山市の芸術・文化の歴史を継承し、その発展に寄与してきた市のシンボリックな存在であります。その伝統や誇りを後世に引き継ぎ、将来にわたる市民の共通の資産であるために、持続性があり、環境に配慮した、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに対応する施設であるとともに、災害時の避難所となる機能も備えた施設であることが必要であります。

また、現施設は老朽化や耐震性に課題があり、新たな場所へ早急な建て替えが必要である状況の中、平成 27 年度までの過疎計画において、建設が位置づけられ、建設財源として過疎債の有効的な活用を第一に考えるべきです。また、併せて国の補助金などについても十分に検討していく必要があります。

さらに、建設事業費と併せて、維持管理費についても慎重な検討を行い、将来にわたって市民に負担を負わせない、身の丈にあった計画づくりが必要であると考えます。

3、市民の積極的な参画

「(仮) 飯山ぷらざ」の建設計画や運営、事業の推進など、計画段階から市民が意見を表明できる場を設け、反映させながら、合意形成を円滑に行うしくみが必要と考えます。

その住民の参画が促進されることによって、住民の理解が広がるとともに、積極的な取り組みが行われ、利用促進とともに、住民のニーズに沿ったまちづくりや、まちの活性化へとつながり推進できるものと考えます。